

■ 全体講評

● 良い点

1	<p>子どもが主体的に遊びや生活に関われるような学童クラブの生活づくりに取り組んでいる</p> <p>日常生活では、出席確認後からおやつまでの時間またはおやつから16時40分のお帰りの会までは、児童センターで遊ぶという選択も可能で、どこで遊ぶか何をするかは、子どもが自分で決めている。お帰りの会では司会は4年生がするが、誰がするのかどんな進行をするのか等子どもに任せ、子ども同士で話し合っていて決めている。12月の子ども忘年会でも、皆でどんな会にしたいのか、あやとりマジック、ストラックアウト、風船遊びなどのエントリーシートをいくつも出しあい、話し合っていて決めている。4年生が9月に行うデイキャンプも4年生会議を何度も開き、やりたいこと、出来ることを話し合っていて決めている。指導員と一緒に過ごす中で、子どもたちの思いに寄り添い、子どもたち自身で実現できるように、子どもたちをサポートしている。</p>
2	<p>児童センターとの併設の利点を生かして遊び場として活用し子どもの交流の場にして、生活空間を拡大している</p> <p>児童センターとの併設の利点を活かして、日常的に遊び場として活用している。学童クラブ室は100名を超える超過密スペースになっているが、センターで自由遊びができることで生活空間を広げることができている。同じ学校の児童であるが、学童クラブが第1・第2と分かれているため、児童センターと一緒に遊ぶことができるという点で、子ども同士の交流の場になっている。また、一般の学童クラブを利用していない子どもとも、センターの事業に参加して交流したり、学校のクラスメイトと待ち合わせて一緒に遊ぶ機会が作れるなど、地域交流という面でも、子どもたちの体験を広げることになっている。</p>
3	<p>子ども一人ひとりの記録を書き、実践記録を通して子どもの気持ちに寄り添った保育ができてきているかの振り返りをやっている</p> <p>当法人の「学童保育指針」では、子ども理解のために一人ひとりの子どもの記録を書くことを指導員の仕事として挙げている。どんな遊びをしているか、友達関係はどうか、課題は何かなどを記録して一人ひとりの子どもを把握している。そして、指導員間で子どもの見方や捉え方のすり合わせを行い、日常の保育や担任教諭と子どもの様子について話し合う学校連絡会に役立てている。また、これらの記録を基にして、法人研修の「実践記録」年間5回開催では、各指導員が一年を通して関わっている一人の子どもに特化した実践記録を持ち寄り、グループで事例検討を行っている。法人では毎年度の実践記録集を作成しているが、記録を通して、子どもの気持ちに寄り添った保育ができてきているかどうかの自分の実践を振り返ることができ、他の指導員と意見交換することで指導員相互の指導力の向上につながっている。</p>

● 改善点

1	<p>集団規模が大きく適正規模をこえており、落ち着いて過ごせる環境とは言い難い状況であり、改善策の検討を望む</p> <p>定数70名の2割増しを目途として、子どもたちを受け入れているが、現状ははるかに超えている。職員は日々の運営の中で子どもたちの生活を守るために努力しているが、限界を超えている。集団規模が適正規模を大きく超えていることで、利用者調査では「学童クラブ室は生活の場として落ち着いて過ごせる雰囲気だと思いますか」との設問に対して、回答者の76.9%が「どちらともいえない」「いいえ」との返答であった。「静かに遊びたい時は不適切」「窮屈に感じる」「落ち着けない」などの声が寄せられていた。「毎日の生活の場として、子どもたちの人数規模は適正だと思いますか」との設問に対しては、「いいえ」と返答した方々は61.8%であった。子どもの放課後の生活を守り子どもの健全育成を図るという本来の目的を果たせず、子どもと職員に全てのしわ寄せがかかっている状態を一刻も早く改善するよう、増設するなどの対策を講じて、学童保育の集団規模の適正化を望む。</p>
2	<p>おやつが改善が望まれる</p> <p>利用者調査では「おやつはお子さんの健康や成長を考慮した内容や量になっていると思いますか」に関して、「はい」と返答した方々は回答者の29.1%、「どちらともいえない」49.1%、「いいえ」16.4%、「わからない（非該当）」5.5%であった。利用者からは「手作りのおやつを時々出て、配慮がなされている」との肯定的な声も寄せられていたが、「お芋、豆などもために出してほしい」「チョコ、アイスなどは好ましくない」「子どもの身体を考えた物をちゃんと考えて欲しい」などの意見が寄せられていた。費用の問題や大規模施設の課題もあり、当施設だけで解決できる課題ではないが、おやつに関して改善が望まれる。</p>
3	<p>職員にとって働きがいのある職場環境づくりへのより一層の取り組みが望まれる</p> <p>職員アンケートでは、大規模化に伴って発生する様々な問題により、職員が疲弊している姿が浮かび上がった。法人方針と現場の状況とのギャップに悩み、職員のモチベーションに大きく影響を与えている。サービスの質向上を推進していくためには、同時に職員のやる気向上が求められる。職員にとって働きがいのある職場環境づくりに向けてのより一層の取り組みが望まれる。</p>